

メガネ？ 矯正手術？？…その前に！ 近視・遠視・弱視・乱視「これで視力がグングン回復する」

1 当センターのトレーニング法、超音波治療法は、国立病院にて効果を実証。

当センターのリハビリ的トレーニング法は、毛様体筋の遠近調整機能を活発にし、視力回復をはかる「室内凝視訓練法」。2ヶ所の国立病院による治療実験で、93%以上の回復効果が実証され、厚生省(当時)に報告されました。副作用の心配も全くなく短期間に回復可能な視力回復トレーニング法です。



多くの眼科学者たちが研究し、改良した視力回復トレーニングを当センターの代表者(仲上紀政)の伯父(仲上一之助)が主宰となり2ヶ所の国立病院で治療実験を行う。93%以上の回復効果が厚生省(当時)に報告された。



眼適応超音波治療器を世界で初めて開発した大日技研(株)の菅原氏が主宰となり大学病院・国立病院等で治療実験が行われた。左記写真は業界最新型で最安価な「ソニマック」。

2 回復見込みチェックからアフターケアまで

1.視力測定

2.矯正視力測定

3.オートレフによる屈折測定と進行程度の確認

4.視力回復見込みの測定

5.体験トレーニング

6.システム説明

7.個人別プランと訓練スケジュール提案

8.再低下予防の為にトータル的なアフターケア



3 眼科医と共同開発されたセンタートレーニング。

近視訓練・遠視訓練・弱視訓練など医療機器として、厚生省(当時)より承認を受けた機器を使用し、個々の眼の状態に応じたトレーニングを行います。



4 自宅でもトレーニングができます。

1回わずか10分のトレーニングや、超音波の投射を1日に2回～3回行います。トレーニングは幼児でもできるように工夫されています。自宅でも、都合のよい時間に視力回復トレーニングを行います。又、視力が回復した後、再低下予防のご相談、定期測定も行っております。

トレーニング/(厚生労働省)医療機器製造許可番号 40B3X10003A000002
超音波治療器/(厚生労働省)医療機器承認番号 15700BZZ01973000

視力回復体験

七才になる娘が小学校の視力検査で近視と言われ、病院で精密に測定すると左右とも〇・三にまで視力が低下し、東京視力回復センターに入会した。

カウンセリングの中で、未だにハッキリと記憶している話は「メガネ」の話である。

「一般的につくられるメガネは、通常5mの距離で二や一五が見えるメガネです。しかし、現代人は5m以上の距離をあまり見ることはなく、家の中だとせいぜい2〜3m先位しか見ていません。自分の眼よりも強い度数のメガネをかけて近視が悪化することは皆さん知っています。しかし自分が、生活上必要のない強い度数のメガネを使っていることに気づいていません。」

「メガネは見えない時だけ使う、が正しい使用方法です。メガネをかけずに見える場合には使わない。でないと本来自身の眼にそなわっている調節能力をメガネに頼って使わないため、機能が退化し、近視が進行していきます。」

両親の近視の有無は、子供の近視発症年齢や近視の進行スピードに関連しているとのこと。

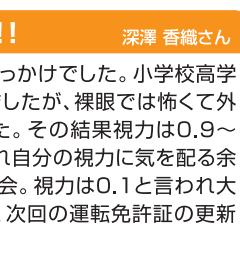
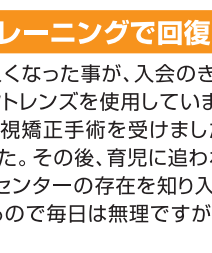
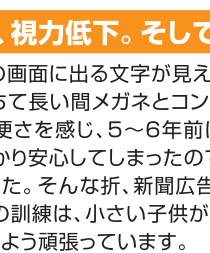
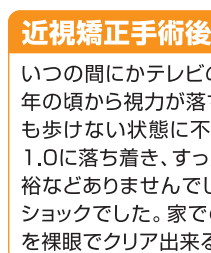
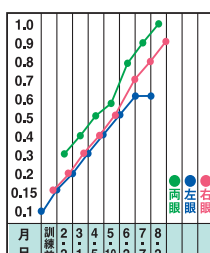
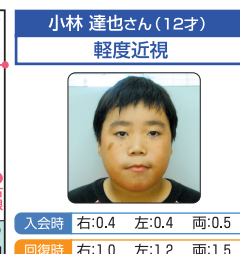
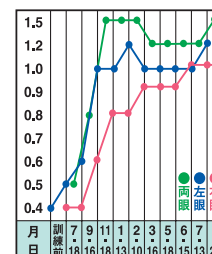
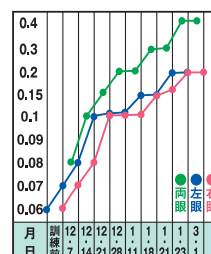
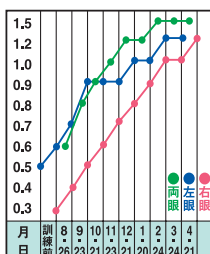
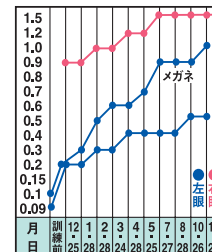
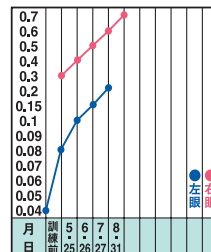
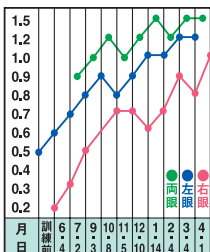
私も妻も近視でコンタクトを使用している。はじめてメガネを使ったのは中学生の終り頃だった。しかし娘は七才でその状況に追いついてしまったのだ。娘はマンガも読まないし、ゲームもしない。一休書道という言葉にやや責任を感じていた。

七才で視力〇・三というのはかなり好ましくない状態で、さらなる進行悪化も予測される状態だか、それでも回復は可能だという。僕は正直安心した。

そして三ヶ月が経過した。このセンターでは三才から六十代の人がトレーニングに通っている。最近の子供はおとなしい、というがなかなかとして、元気な男の子からバイロットやボクサーなどの夢を目指す大学生OLさんやミドルの方まで、本当に頑張っていると感じた。月に数回、片道一時間の距離は大変であるが、家でのトレーニングを欠かさない娘はもう〇・七まで回復している。

教室の後ろの方から黒板の文字が見え、以前より周りが明るく見えるようになった、と娘も喜んでる。

佐藤 和彦



近視矯正手術後、視力低下。そしてトレーニングで回復!!

いつの間にかテレビの画面に出る文字が見えにくくなった事が、入会のきっかけでした。小学校高学年の頃から視力が落ちて長い間メガネとコンタクトレンズを使用していましたが、裸眼では怖くて外も歩けない状態に不便さを感じ、5〜6年前に近視矯正手術を受けました。その結果視力は0.9〜1.0に落ち着き、すっかり安心してしまったのでした。その後、育児に追われ自分の視力に気を配る余裕などありませんでした。そんな折、新聞広告でセンターの存在を知り入会。視力は0.1と言われ大ショックでした。家での訓練は、小さい子供がいるので毎日は無理ですが、次回の運転免許証の更新を裸眼でクリア出来るよう頑張っています。

そこが知りたいQ&A

Q どんな目でも回復するの？

A 近視・遠視・乱視・弱視といった屈折異常が原因による視力低下が対象です。また、回復の可能性は個々の目の状態、年齢などにより異なりますので、まずは「視力回復見込みチェック」を受けていただき、回復の有無・かかる期間等個別プランを明確にしております。その際、見学もご自由に出れます。※眼疾患や一部矯正不可の場合等はお断りし、眼科医への検診をお勧めする場合がございます。

Q 近視矯正手術を受けようと考えているの？

A まず近視矯正手術の場合、未成年者は原則手術不可で、大人の方ならばその方法もありますが、やむを得ない場合以外の安易な決定はお奨めできません。人間の眼は生涯変化をしていきます。手術をしてもこれは同じで、実際、手術後の再低下でご相談にお見えになる方が年々増えています。また手術が完璧であったとしても、手術をしない場合よりも早く老眼の症状が出やすくなる事が多く、早い方では30代後半で老眼鏡が必要となるリスクがあります。当センターの方法は、回復される方がその方法を体得することで再低下を防ぎ、また眼を鍛えることで老眼の症状がでるのを通常よりも遅くすることが可能なのです。東京視力グループ代表の仲上紀政は現在70歳ですが老眼鏡も近視用のメガネも使用していません。

Q 費用はどれくらいかかるの？

A 通常、入会金が一律1万円です。コース料金は月額1万〜2万円台が目安となります。その他、使用する医療機器(HIP参照)の代金が加算されますが、回復見込みチェック後に詳しく料金が記載された費用明細をお渡ししておりますので、まずはお気軽にご相談下さい。

Q 他の視力回復センターとはどう違うの？

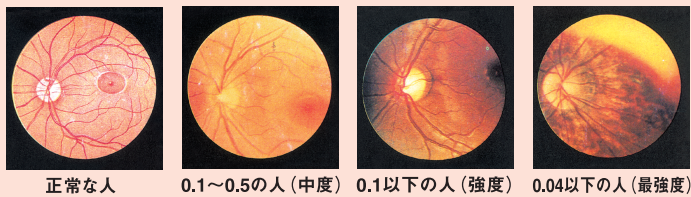
A 通信販売などでは、「近視も遠視も弱視も同じ方法」というところが殆んどですが、これらは全く異なった目の状態であり、当然回復までの方法も違います。当センターでは、初回時に単なる視力測定(裸眼のみ)だけではなく、屈折度測定(コンピュータ測定器使用)や矯正視力なども詳しく調べ、個々に合った方法や日常生活改善の説明も行っております。いすれにしても〇〇視力センターなどの施設であつてもまずはご自身の目で確かめ、納得のいく説明を聞いた上での選択をお薦めします。

驚異の回復実績!!

視力回復トレーニングによる回復者実績国内第1位!!

■「トゥナイト」	1992年	5月	4日放送	(テレビ朝日)
■「快傑!ドクターランド」	1993年	1月26日放送	(TBSテレビ)	
■「ルックルックこんにちは」	1994年	5月13日放送	(日本テレビ)	
■「おはようナイスデイ」	1994年	7月12日放送	(フジテレビ)	
■「あなたにオンタイム」	1995年	3月14日放送	(TBSテレビ)	
■「ビートたけしのTVタックル」	1996年	11月25日放送	(テレビ朝日)	
■「花まるマーケット」	1998年	4月	2日放送	(TBSテレビ)
■「健康子どもっち」	1998年	5月	1日放送	(NHK衛星第2)
■「まかせて!!エキスパ」	2001年	2月	9日放送	(フジテレビ)
■「ためしてガッテン」	2003年	4月	2日放送	(NHKテレビ)
■「まちスタ」	2008年	9月	16日放送	(千葉ケーブルテレビ)

眼底写真の一例



正常な人 0.1~0.5の人(中度) 0.1以下の人(強度) 0.04以下の人(最強度)

気づいた時にはもう遅い?!「早期対策」こそ回復の近道です! 近視を分類すると、「屈折性近視」(眼球変化はなく毛様体筋の異常緊張によるもの)と「軸性近視」(眼球の形が球状から楕円に変わるもの)の2種類があります。近視の初期段階である「屈折性近視」は、早期に発見されれば、ほぼ正常視力まで回復する可能性がありますが、低下が始まって6ヵ月を経過すると、屈折性近視の中でも、軽度(仮性近視)から中度(真性近視)へと移行が始まり、回復がだんだん難しくなります。さらに「軸性近視」へと進行すると、網膜剥離の危険性も伴います。ただ、「軸性近視」の場合でも、正常視力までは無理としてもトレーニングにより、進行予防または室内でのメガネ不要などの効果が望めます。上記の眼底写真に見られるように、近視も虫歯と同様、放っておけば状態は悪化していきます。「視力低下=メガネ」ではなく、進行悪化する前に「早期対策」として、トレーニングによる視力回復をお薦め致します。

◇ 93%以上の回復効果を実証! 無料電話相談受付中!! ◇ 4歳から60歳代まで安心の視力回復を ◇